

政府は二十五日、五月の月例経済報告で景気の現状について「厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになってきている」とした。「急速な悪化」という従来の見方をやや改善方向に見直した内容だ。「悪化」との基調判断は維持したものの、与謝野馨財務・金融・経済財政相は「最悪の時期は脱した」との認識を示した。

上向き方向で見直すのは三年三カ月ぶり。背景には輸出、生産、経済対策の効果という三つの「薄明かり」がある。輸出と生産の判断はいずれも「下げ止まりつつ

5月の月例報告 判断を引き上げ

景気、3つの「薄明かり」

ある一に引き上げた。輸出は三月の指数が七カ月前比プラスとなった。輸出や生産に影響を与える海外経済は「引き続く深刻な状況にあるが一部に政策対応の効果が見られる」と指摘。米国の

「収縮のテンポが緩やかになる兆しがみられる」に、アジアも「中国では景気は持ち直しつつある」に上方修正した。国内での経済対策による効果があらわれたのが四月の公共工

生産・輸出や公共投資 雇用なお不安要因

「収縮のテンポが緩やかになる兆しがみられる」に、アジアも「中国では景気は持ち直しつつある」に上方修正した。国内での経済対策による効果があらわれたのが四月の公共工

景気判断、5月は「悪化テンポ緩やかに」に上げ

◁は上方修正、▲は下方修正、⇒は据え置き

基調判断	
1月	▲ 景気は急速に悪化している
2月	▲ 景気は急速な悪化が続き厳しい状況
3月	⇒ 同上
4月	⇒ 同上
5月	◁ 厳しい情勢にあるものの、悪化のテンポは緩やかに

主な判断項目と最近の経済指標

個人消費「緩やかに減少」	⇒
■ 0.4%増(3月の消費総合指数)	
生産「下げ止まりつつある」	◁
■ 1.6%増(3月の鉱工業生産指数)	
輸出「下げ止まりつつある」	◁
■ 3.1%増(3月の輸出数量指数)	
公共投資「このところ底堅い動き」	◁
■ 20.5%増(4月の公共工事請負額)	
雇用「急速に悪化しており、厳しい状況」	▲
■ 4.8%(3月の完全失業率)	
■ 失業者は過去最大の前年比67万人増	

(注)消費と生産、輸出は前月比、公共投資は前年同月比

事の請負金額は前年同月比二〇・五%増え、二カ月連続の二ケタ上昇。月例報告は「このところ底堅い」に判断を上げた。今回の報告では景気がなお悪化しているとの認識自体は変えておらず、先行きについて「厳しい状況が続く」と分析。雇用情勢を「急速に悪化しており厳しい状況」へ判断を下方修正。海外経済

にも米大手自動車の経営危機に加え、金融不安解消の行方など不透明要因が残る。与謝野馨財務相は「いろんな下振れリスクがあるので楽観主義に陥ってはならない」と、警戒姿勢を強調した。